

附属中学

教育目標

- 1 知性を高め、教養を深める
- 2 品性を養い、感性を磨く
- 3 自ら判断し挑戦する精神を高める

30 富士附中第6号
東京都立富士高等学校附属中学校長
校長 決 定

平成30年度 東京都立富士高等学校附属中学校 学校経営計画

I 目指す学校

伝統ある富士高校の自主自律を尊重する精神を受け継ぎ、主体的な行動を大切にして、確かな学力を育成するとともに、部活動や学校行事等の様々な創造的な教育活動に積極的に参加し、たくましい体力や豊かな人間性を培う教育を実践し、自己の能力を最大限に発揮し広く社会に貢献できる人材を育成する。

(1) 生徒の能力を開花させ、進路実現を図る学校

健全で明るい校風の中で、授業第一主義をモットーに確かな学力を育成する。そして、6年間の一貫教育を通して、**難関国公立大学等に合格させる学校**にする。

(2) 創造的な活動で自主自律の精神を育てる学校

学校行事や部活動及び地域社会との交流、国際交流、ボランティア活動等、幅広く体験を積み重ね、リーダーシップをもった**自主自律の精神を備えた生徒を育てる学校**にする。

(3) 理数アカデミー校として、体験・情報・理数教育で探究力を育てる学校

質の高い情報教育と、理数教育・環境教育の推進を通して、生徒一人一人が自ら考え課題を設定し、問題を解決しようとする**探究力を培う学校**にする。

(4) 国際化に対応する教育を重視する学校

国際理解教育を重視し、**国際社会で活躍できる人材を育成する学校**にする。

II 中期的な目標と方策

理数アカデミー校として、基礎・基本の土台の上に、主体的に考える授業によって富士山型の人間を育成する。将来自立した国際社会のリーダーとして活躍できる資質の高い人材の育成を果たす。また、生徒の自己有用感や帰属意識を高める指導を組織的に行う。

1 授業の充実

教科主任会議と教科会の効果的な連携をより一層推進し、主体的に考えさせる「富士授業」を実践して

いく。日々の学習で基礎・基本の上に考える力を育成していく指導をする。その上で発展的な学習も積極的に挑ませ、高い学力が身に付く指導体制を整える。

- (1) 「認知の網を広げる」を合言葉に、主体的に考える授業を展開する。そのためにアクティブ・ラーニングを取り入れて、学ぶ楽しさ、わかる・できる喜び等の成就感を自覚できる授業を実践する。
- (2) 新たな大学入試制度を意識し、高校卒業までのビジョンの中で確実にレベルアップできる授業を実践する。
- (3) 中学3年生で実施する探究未来学において、理数アカデミー校の取組と関連させながらグローバルなものの見方や考え方の育成を図る。
- (4) アメリカ研修を軸とした教育プログラムを活用して生徒の能力開発に取り組む。

2 進路支援

国際社会のリーダーとして必要な資質・能力を幅広く身に付ける意義を理解させ、教科・学年・分掌が学校の目指す方向に向かって一体となった進路指導を充実させる。

- (1) 系統的組織的な進路指導を展開するため探究未来学で育成する力を重視する。
- (2) 進路指導の成果や取組を「見える化」する。同じ目標を設定する生徒同士が互いに激励し合い、切磋琢磨する環境も整える。
- (3) データ主義に基づき、良いところを褒め、改善点を具体的に明示し、生徒が苦手な教科を作らないように工夫した指導を展開する。

3 生活指導

「中高一貫教育校富士」の一員としての自覚を持たせ、集団の中でリーダーを育成する。そして自律的に生活規律の向上を図る集団づくりを組織的に進める。

- (1) 学校生活や教育活動全般を通してルールやマナーを守る態度の大切さや、礼儀・挨拶の意義を理解させ、集団の一員としての自覚を高めるとともに、仲間と共に成長できる喜びを自覚させる。
- (2) 定期的な朝礼や学年集会を活用して、心の発達に応じた生活指導を実践する。
- (3) 教員の人権感覚の向上及び教員と生徒の信頼関係に基づく指導の徹底を通して、体罰事故の防止を図る。
- (4) いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止及び早期発見に組織的に取り組む。
- (5) 担任と副担任の垣根を越えて「1学年1学級」の発想で中学全体の学年経営力の向上を組織的に行う。
- (6) スクールカウンセラーとの連携を図り、特別支援教育コーディネーターを中心に、特別な支援を必要とする生徒に対する対応を組織的に行う。

4 特別活動と部活動の推進

創造的な特別活動や部活動を通して、強い精神力や思いやりの心、互いに協力する態度を育み、社会性を身に付けた国際社会のリーダーとなる人材を育成する。

- (1) 学校行事では高校生と協働して、互いを高め合う集団づくりを意識し、皆で挑むことの喜びを実感させる。
- (2) 部活動では部員同士の連帯感を深め、協調性や指導力を培う。また、幅広い体験学習を通して生きる力を育成する。
- (3) 学級活動、生徒会活動では創造的な活動を促進する。特に校内美化に積極的に取り組ませ、また、環境問題など大きなテーマを学校生活の中でできることから始めていく態度を育成する。

5 学校PR

学校説明会、授業公開、体験授業などの学校PR活動に全校体制で取り組む。

- (1) 本校のホームページによる情報発信を組織的、効果的に行う。
- (2) 説明会などで生徒の発表や活動内容を紹介し、富士の魅力を直接伝えていく。

6 高校と連携した中高一貫教育の確立

中高一貫教育校6年間の教育計画を磨いて、本校の特色化をより一層推進する。

- (1) 探究学習を通して生徒の総合的な力を身に付けさせる。そのために教職員が協働する体制を整える。
- (2) 教育活動全般を通して、高校の生徒との交流を深め、中高一貫教育校としての連帯感及び帰属意識を高める指導を行う。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

数値目標達成のため、「チーム富士」が一丸となって生徒主体の教育活動を展開し、以下の目標と方策を確実に履行していく。

1 学校経営・組織体制

(1) 目標

「チーム富士」の自覚をもって、学校経営計画を確実に履行していく。また、常に分掌・学年・教科・経営企画室との連携を重視し、横串を意識した企画調整会議と教科主任会議を軸とした学校経営を行う。

(2) 方策

- ① 学校経営計画の数値目標に則り、各分掌等は組織目標・数値目標を設定し、分掌相互に協力して計画の実現に向かう。年度途中のプロセス評価を交え、年度後半の取組を再設定し、目標達成を確実にしていく。特に、教科主任会を学力向上の要の組織として位置付け、改善策を迅速に一致協力して実践していく。
- ② 各分掌・各教科主任は、年度末に数値目標の達成状況や成果を報告する。

2 学習指導

(1) 目標

「教えるプロ（教師）」の誇りを持ち、理数アカデミー校として、育成していく考える力を想定して、全ての教科で意図的・計画的に指導をしていく。生徒の高い進路希望を実現するために、アメリカ研修を活用する。また、アクティブ・ラーニングを意識した授業第一主義を実践し、学ぶ楽しさ、わかる・できる喜びを実感できる授業、高度な学力が身に付く授業を実践する。また、「学力向上のための取組みシート」を活用しながら課題の複線化を着実に実行する。

(2) 方策

- ① 考える力を育成する「富士授業」に基づく授業第一主義を推進する。シラバスをベースに到達すべき目標から逆算した定期考査で成果を検証していく。生徒に予習・復習を促し、達成感が得られる授業を展開する。また、自習室や自主学习支援学生を配置した理数質問教室を活用させて、生徒が主体的に学習に取り組む姿勢や態度を育成する。
- ② 教科主任会議を機能させ、データ分析に基づく学習戦略を徹底する。また、教員は各自の端末で模試分析ソフトを駆使したデータ分析を実施して、データに基づく指導を実践する。
- ③ 放課後スタディや富士サポート等の講習で生徒の学力向上を確実に支援する。また、課題の複線化を図ることによって、朝学習や放課後学習等を効果的に融合させた学習環境を確立させる。
- ④ アメリカ講座（シリコンバレー及び国内研修を含む）を充実させて、生徒のグローバルなものの方方や考え方を身に付けるとともに、最先端の技術やサービス等への関心興味を意図的に喚起して、自己の能力開発を促し、実施後の校内研修発表及び還元方法について検討する。
- ⑤ FUJI PORTFOLIOを継続し、外部への発信力を強化する。
- ⑥ 長期休業日中の補講・講習は部活動に優先して実施する。教科のつまづきを確実に解消させていく。

- ⑦ 理数アカデミー校に関連する土曜講座などを積極的に企画し、実物を実感できる機会を提供し、科学技術分野への理解を深めさせる。また、東京大学と連携し、放課後を活用した「体験型起業家育成ワークショップ」や「理科実験教室」などを実施する。
- ⑧ 生徒の健康と体力の保持・増進を図るため、栄養・運動・休養についての正しい知識を身に付け、実践できるようにする。また、全ての体育の授業において、富士サーキットトレーニング（スクワット、腹筋、背筋運動）を実施する。
- ⑨ 教育活動全体を通してオリンピック・パラリンピック教育を実施し、自己を肯定し、自らの目標を持って自らのベストを目指す意欲と態度を育む。また、運動スポーツに「する・みる・支える・知る」等の多様な関わり方ができるようにする。

3 生活指導

(1) 目標

「育てるプロ（育師）」の自覚をもって、社会を生き抜く力をもったリーダーとして「責任感」、「思いやりの心」を身に付けた生徒を育成する。また、種々の部活動や学校行事を通して、団体戦を意識して協働し、互いに高め合う生徒を育成する。さらに、道徳教育の全体計画に基づき、全教育活動を通して心を耕す教育に取り組む。

(2) 方策

- ① 学校行事・部活動で団体戦を意識させ、帰属意識・成功体験を身に付けさせる。始業式や終業式及び朝礼においては校歌を全員で大きな声で斉唱する。
- ② 道徳教育推進教師を中心に、全教育活動を通して規範意識の向上や心を耕す教育に取り組む。
- ③ 給食の指導等を通して食育の推進を図るとともに、スクールカウンセラーを有効に活用し、学校全体の相談機能の充実及びカウンセリング能力のレベルアップを図り、生徒の心身の健康と体力向上に努める。
- ④ 特別支援教育の視点に立って、特別な支援が必要な事案となる場合は、個別の指導を組織的に実施する。特別な支援が必要な状況においては、学級担任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラーによるケース会議を効果的に機能させるなど、支援体制の充実を図る。
- ⑤ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの早期発見及び防止に組織的に取り組む。また、生命尊重の精神を徹底する。
- ⑥ 朝学習、瞑想、書写、三心礼法などを通して、生徒が主体的に学習環境を整えようとする自主・自律の精神を育む。制服指導など課題が出た時点で、全校集会等で指導を徹底する。
- ⑦ 人権尊重の精神及びコンプライアンスの徹底を図り、体罰防止に組織的に取り組む。
- ⑧ 説明責任を果たし、丁寧な保護者対応等により生徒への指導を深めていく。
- ⑨ 規律ある学校生活を送る生徒を育成する。
- ⑩ セーフティ教室や防災教育を計画的に実施し、生徒の安全意識・防犯意識を高めさせる。また、「SNS校内ルール」を策定し、SNSにかかわるトラブルの未然防止に努める。

4 特別活動・部活動

(1) 目標

「富士」の誇りが醸成できるよう、目標に向かって活動する生徒を積極的に支援する。顧問や担任は、「進路先のその先にある人間としての在り方生き方」を視野に据えた指導を意識し、地域等の外部の教育力を活用して、国際社会の輪の中心で活躍できるリーダーの資質を育成する。

(2) 方策

- ① 学校行事では互いを高め合う集団づくりを意識し、参加する喜びが実感できる行事にする。また、地

域等に公開して集団で挑む富士の学校行事を発信していく。

- ② 部活動では部員同士の連帯感を深め、協調性や指導力を培う。また、「一部活一地域貢献」で地域社会への貢献を果たす。
- ③ 指導する教員のワークライフ・バランスと生徒の自由裁量の時間を鑑みて、休養日を確実に設定する。
- ④ ホームルーム活動、生徒会活動では創造的な活動を促進する。特に校内美化に積極的に取り組ませる。また、また、職場体験等で地域社会と連携し、地域に貢献する活動を取り入れて実施する。
- ⑤ ボランティア精神を発揮できるよう父母と先生の会、おやじの会等の関係機関との連携を強化する。また環境問題など大きなテーマを保護者や地域の支援で学ぶ機会も提供する。

5 進路指導

(1) 目標

「進学のプロ」の誇りをもって、生徒の高い進路希望を実現する指導を組織的に実施していく。また、理数アカデミー校の取組と関連させながら、身に付ける資質・能力を明確にした進路指導を行う。更に、模試分析ソフトを活用して、進路データを駆使し、研修を通して全教職員で進路情報の収集・共有を図る。

(2) 方策

- ① 分掌と学年と教科が一体となって共通の戦略で生徒を指導する。進路指導計画に基づき、意図的・計画的な学習の積み重ねを重視した策を展開していく。
- ② 生徒の進路について丁寧に意図的・計画的なガイダンスを実施し、キャリア計画に基づき、生徒の学ぶ意欲を高めていく指導を展開する。
- ③ 進路学力部が進路情報及びデータを一元管理し、全教職員に進路情報を共有させる。生徒個々の成績推移や志望・指導の経緯などを網羅した「個人カルテ」を作成する。一人一人の定点観測を行い、計画的な成果検証を交えて、生徒の学力向上に向けた支援を行う。
- ④ 家庭学習時間を確保させ、自習室の活用を積極的に呼びかけ、団体戦（学び合い、教え合い）を意識させて、生徒の文武両道を支援する。
- ⑤ 団体戦を支援するため、学年集会や保護者会を通して生徒に寄り添った進路指導を展開する。

6 募集・広報活動

(1) 目標

「チーム富士」の教育実践を総務部主導の下、塾や小学校に広く紹介し、本校が期待する生徒を集める。そのために、学校公開、学校説明会、部活動体験入部を組織的・計画的に実施する。

(2) 方策

- ① ホームページで学校情報を積極的に発信し、更新頻度を高めて本校の特色ある教育活動の様子を広く都民に公開する。
- ② 全教職員の連携・協力の下に、授業公開、学校説明会、適性検査問題解説授業等を実施して、受検倍率を向上させる。

IV 本年度数値目標

- (1) 中1・中2は学力推移調査を年3回、中3は年2回実施し、英語・数学・国語の3科目においてCランク0名、Sランク各学年40名とする。
- (2) 中3はKei-SATのスコア525到達を20%以上とする。
- (3) 中3の1月実施の東大模試に50名以上受験させる。
- (4) 中3の学年末までに英検準2級以上を取得する生徒の割合を70%にする。(前年度：中3…50%)
- (5) G-T E Cの690以上を取得する生徒の割合を70%にする。
- (6) 学年末までに英語の多読で6万語を突破する生徒の割合を70%にする。(前年度：62%)
- (7) 新体力テストの全ての種目で、全国平均値を上回る。(前年度：5種目で平均値以上)
- (8) 部活動の加入率を95パーセント以上にする。(前年度：93%)
- (9) 学校評価アンケートの項目「私は毎日予習・復習を行い、熱心に授業や自宅学習に取り組んでいる」に対する生徒の肯定的な評価を85%以上にする。
- (10) 学校評価アンケートの項目「私は部活動や学校行事に満足している」に対する生徒の肯定的な評価を85%以上にする。
- (11) 生徒一人あたりの年間読書冊数を50冊以上にする。
- (12) 探究活動において外部機関への発表参加数を10件以上とし、FUJI PORTFOLIOを編集する。
- (13) 年間皆勤の生徒の割合を各学年30%以上にする。
(前年度：中1…40%、中2…26%、中3…20%)
- (14) 土曜日の授業公開(土曜日の学校説明会も含む)の合計来校者数を5000名以上にする。
(前年度：4800名)
- (15) 適性検査応募者数を平均5倍以上にする。(前年度：5.00倍)
- (16) 理数アカデミーの活動として、放課後や土曜日の午後に外部人材を活用した理数質問教室を50回、理科実験教室を8回、理数ワークショップを10回以上実施する。
- (17) 理数アカデミー関連講座に年間のべ3000名以上参加させる。
- (18) 教育相談員会を年間8回以上、思春期心理についての研修会実施し、適時適正に生徒理解、支援に努め、体罰事故を0件とする。